



『目が見えない人は世界をどう見ているのか』

伊藤亜紗／光文社新書

本館	請求記号：X/081/Ko14/751	資料ID：701435075
神田分館	請求記号：J/369/I89	資料ID：701809816

ネットワーク情報学部准教授 栗芝 正臣

人間は環境からたくさんの情報をピックアップしながら日々生活しています。とりわけ視覚からの情報により多くを依存しているとも言われています。では、目が見えない人は晴眼者より少ない情報しか得られないのかというと決してそんなことはありません。視覚情報が無いということは欠如ではなく、音や触り心地や香りや地形など、視覚以外の豊潤な感覚でかたちづくられた世界を捉えており、そこには晴眼者とは異なる「見え方」で世界が立ち現れているのです。

この本は、目が見えない人の感覚の使い方、世界の捉え方に迫りながら、目で見て得られる情報は世界の一部であること、見えるからこそ見えないものがあること、見えないからこそ見えることがあること、世界の異なる見え方や捉え方があることに気づかせてくれる本になっています。

また、健常者と障害者の間にある「手助けしてあげなければ」というような偏った福祉的な態度にも一石を投じる内容となっています。障害とは個人に根ざすものではなく、社会や環境の側にあること、その差異や特性を相互理解することは、より良い世の中をかたちづくる新たな可能性を見出すことにつながっていくのだと気づかせてくれます。